

## 母娘関係と女子青年のSexuality形成との関連 — 性同一性尺度を用いた検討 —

柳原 利佳子

### 【問題と目的】

従来、心理学では乳児期の人間関係の基盤となる信頼感を形成する点で、家族内の母親的関わりをする人の存在が重要視されているが、幼児期以降においても、性同一性の芽ばえ、性役割の理解、第二次性徴による自分の身体への気づきなどの子どもの発達過程において、性を取り巻くさまざまな親の価値観や養育態度などが大きな影響を及ぼしている。また先進諸国のHIV感染者数の増加が頭打ちとなっている中で、我が国は未だ増加を続けており、学校機関だけではなく、家庭における性教育の重要性が高まっている。本研究では、日常生活の中で形成されていくSexualityについて、特に性同一性や性感染症に対する知識をとりあげ、女子青年にとって最も身近な同性モデルとしての役割を果たしている母親との関係を検討した。

### 【方 法】

2006年7月に女子大学生とその母親に質問紙調査を実施した。女子大学生の質問紙については、授業時間中に質問紙を一斉に配布し、回答を求めた。母親の質問紙については持ち帰らせ、後日回収した。

調査対象：女子大学生（以下、娘と略す。）250名とその母親（有効回答数：娘226名、母親60名）。

分析対象：有効回答の中で母娘関係のペアの成立した55組。

分析内容：①性同一性尺度女性版（GIF）（伊藤、2001）、「父への信頼」「母性としての母への同一視」「ステレオタイプな性役割への同調」「性的成熟への戸惑い」「性の非受容」の5つの下位尺度からなる。なお、下位尺度に含まれる項目の単純加算値を算出して尺度得点とした。（28項目、5件法）

②エイズに関する知識についての正誤問題（23項目の合計点を算出し知識点とした。）

③月経に関する項目

### 【結果と考察】

母娘間の性同一性尺度間の関係を検討するために、下位尺度間の相関を求めたところ、母娘それぞれの性的成熟への戸惑いに弱い相関、母親の性の非受容と娘の父への信頼との間に負の弱い相関が認められた。つまり、母親と娘の性的成熟への戸惑いは関連し、母親自身が性を受容できないことが、娘の父親への不信感につながることを推測させるものであった。次に、母親のGIF下位尺度について、娘の知識点より成績の上位群、下位群を独立変数として設定しt検定を行ったところ、上位群の方が下位群よりも母親自身の性的成熟への戸惑い得点が低かった。さらに、知識点について、娘の月経に関する項目より独立変数を設定しt検定を行ったところ、母親が閉経しているかどうか知っている者の方が知らない者よりも知識点が有意に高かった。以上より、母親自身の性に対する考え方や娘への経験の伝達の点において、家庭での性教育における母親の有効性を示唆するものがみられた。